

企画展 “あの日”の記録

～戦傷病者の写真展～

開催趣旨

しょうけい館では、戦傷病者の写真を収集しています。そのほとんどが、個人のアルバムにあったものです。戦傷病者は、戦地でどのような体験をして、戦後はどのような人生を家族とともに歩んできたのでしょうか。戦中・療養中・戦後の写真から、戦傷病者とその家族の“あの日”の想いに触れてみませんか。本展では、証言映像収録の際に収集した人物写真を中心に、関連する資料・証言映像・図書を展示します。

主催：しょうけい館

会期：2008年7月24日(木)～9月28日(日)

会場：しょうけい館1階

入場料：無料

開館時間：10:00～17:30(入館は17:00まで)

上映時間：10:00、12:00、14:00、16:00(上映作品は前期後期で一部入れ替え)

休館日：毎週月曜日・9月16日(火)

内覧会：2008年7月23日(水) 15:00～17:00

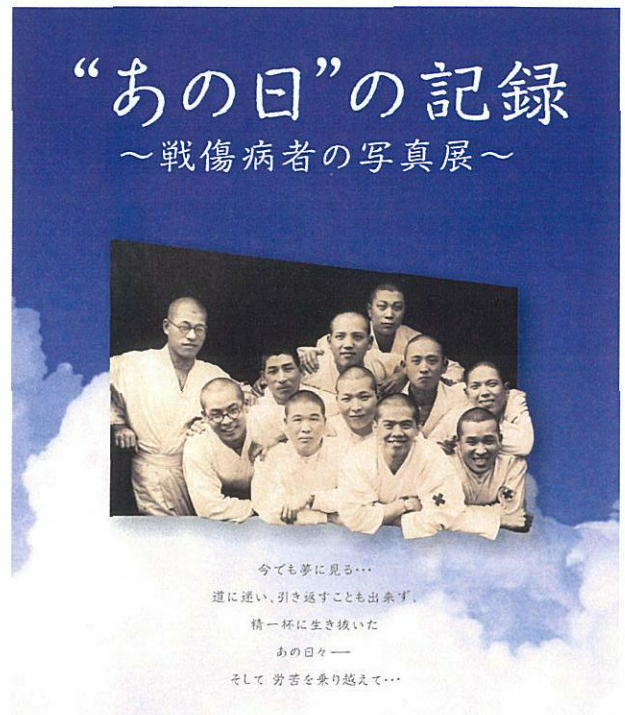
所在地：〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-13共同ビル九段2号館

問い合わせ：TEL 03(3234)7821 FAX 03(3234)7826

交通：地下鉄九段下駅から徒歩1分(東西線・半蔵門線・都営新宿線6番出口)、JR飯田橋駅から徒歩15分

ホームページ：<http://www.shokeikan.go.jp/>

その他：駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。



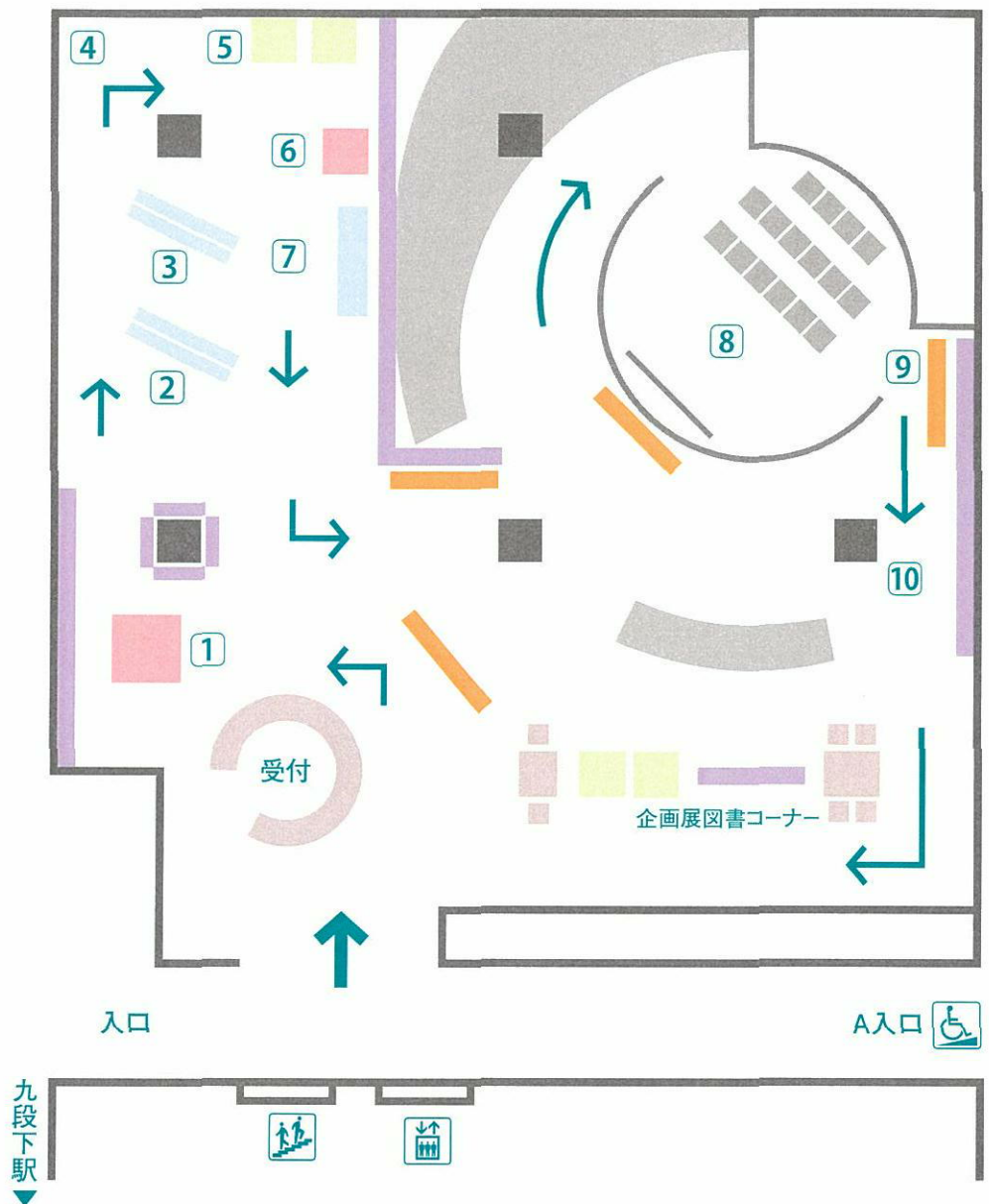
“あの日”の記録 ～戦傷病者の写真展～

今回の写真展は、10コーナーごとに、戦傷病者の「戦中」（受傷前）、「療養中」（受傷後）、そして「戦後」（現在）における人物写真を通して、“あの日”の想いを展示します。

1F 企画展示コーナー

- 1 義肢に血が通うまで
- 2 家族に支えられて
- 3 傷を受けて
- 4 写真集と図録
- 5 情報検索コーナー
- 6 病とともに生きる
- 7 戦傷病者の妻たち
- 8 証言映像シアター
- 9 戦傷病者の受傷地図
- 10 戦傷病者と風景

- 解説パネル
- シンボル展示
- 展示壁面
- 展示ケース
- 情報検索端末



キャプション凡例

- ① 写真のタイトル
- ② 撮影年代/撮影場所
- ③ 資料提供者(敬称略)
- ④ 解説文
- ⑤ 証言映像タイトル

1 義肢に血が通うまで



- ① 療友とともに
- ② 昭和17年5月頃
臨時東京第一陸軍病院
- ③ 香川県 野角 敏幸

④ 本病棟では下肢切断者が厳しい歩行訓練に耐えた。訓練後のひととき。野角さんは中列右側から2番目。



- ① 能動義手をつけて
- ② 昭和39年頃 職場
- ③ 長野県 大日方 邦治
- ④ 東京パラリンピック出場が決まって、新聞記者から贈呈された1枚。電気工事の資格を取るために、物がつかめるようになる「能動義手」は欠かせないものだった。
- ⑤ 「働くために義手を」

2 家族に支えられて



- ① 園児たちとともに
- ② 昭和27年頃 沖縄厚生園
- ③ 沖縄県 又吉 キク

④ 「戦争で家族を失った子供たちの寂しさを理解できるのは、片手を失った私のほかに誰もいない」と思っていた。

⑤ 「母に支えられて…」



- ① 療養中に
- ② 昭和21年 湯河原の転地療養所
- ③ 東京都 伊東 朝雄
- ④ 両手切断後、生きる気力を失い何度も自殺を考えた。それを思い止めさせてくれた付き添いの妹とともに。
- ⑤ 「生きる…それは死ぬよりつらかった」

3 傷を受けて

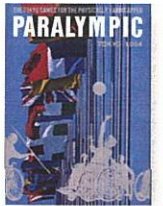


- ① 入営を前に
- ② 昭和14年11月28日
自宅の庭
- ③ 長野県 唐澤 勝治

④ 家族との記念写真。唐澤さんは、「今でも戦争の夢を見る。道が分からなくなって、引き返すことができなくなる」という。

⑤ 「奇跡の生還、そして苦難の日々」

4 写真集と図録



5 情報検索コーナー



ここでは、展示しきれなかった、数多くの「戦傷病者の写真」を「実物資料」の中から自由に閲覧できます。

あわせて、「証言映像」と「戦傷病者の記録」もご覧ください。

キャプション凡例

- ① 写真のタイトル
- ② 撮影年代/撮影場所
- ③ 資料提供者(敬称略)
- ④ 解説文
- ⑤ 証言映像タイトル

6 病とともに生きる



- ① 陸軍看護婦生徒
- ② 昭和20年4月 奉天陸軍病院北陵分院
- ③ 千葉県 三浦 久良
- ④ 同病院を見学したときに、教育隊長と看護婦長、生徒を撮影したもの。三浦さんは同年7月、湿性胸膜炎で奉天陸軍病院入院。三浦さんは「看護婦生徒の手厚い看護のおかげで、生きてこられた」という。
- ⑤ 「馬とともに戦った戦場」

7 戦傷病者の妻たち



(新津 玉)

- ① 日本赤十字社救護看護婦として
- ② 昭和13年4月頃 松本陸軍病院
- ③ 長野県 碓井 二郎
- ④ 新津玉さんは、療養中の碓井さんと出会い、後に結婚した。玉さんは夫の右手を案じ、常々、様々なリハビリをうながした。長年支え続けてくれた妻への感謝の気持ちを、碓井さんは決して忘れることがないという。
- ⑤ 「七転八起」

8 証言映像シアター

当館では、証言映像“戦傷病者の労苦を語り継ぐ”を収録し、公開してきました。本展では、長野県で新たに収録したものを含む、記録映像を上映いたします(前期と後期で一部入替)。情報検索コーナーでも自由に視聴できます。また、上映作品も含め、DVDの団体貸出も無料で行っています。お気軽にお声をおかけ下さい。



- ① 妻とともに
- ② 昭和60年頃 愛媛県
- ③ 東京都 水沼 毅四郎
- ④ 夫の右足が義足のため、道路の段差につまずくと、すぐに倒れてしまう。それゆえ、妻は夫の右側に立つのが癖になった。
- ⑤ 「負けてたまるか」

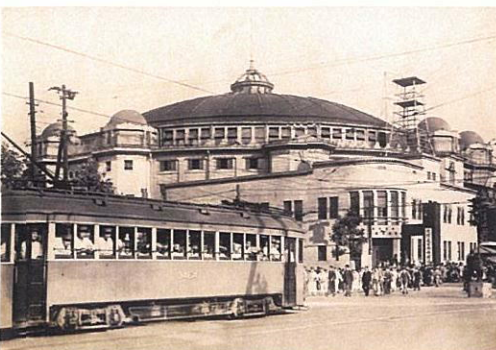
上映作品

「戦病者として生きる」*	上本昭夫さん
「信じあえばこそ、今」*	飯嶋芳郎さん
「奇跡の生還、そして苦難の日々」*	唐澤勝治さん
「生きる…それは死ぬよりつらかった」	伊東朝雄さん
「生と死に向かい合った2時間」	西村友雄さん
「働くために義手を」*	大目方邦治さん
「七転八起」*	碓井二郎さん
「負けてたまるか」	水沼毅四郎さん
「馬とともに戦った戦場」	三浦久良さん
「義足で、田んぼでも畑でも働いた」	飯島茂さん
「母に支えられて…」	又吉キクさん

*…新たに制作した映像

9 戦傷病者の受傷地図

10 戦傷病者と風景



- ① 傷病兵と両国国技館
- ② 昭和18年頃 東京都墨田区
- ③ 広島県 藤川 勇
- ④ 「義足の訓練で厳しい時に、大相撲の招待の嬉しさは未だに忘れられない。」

以上